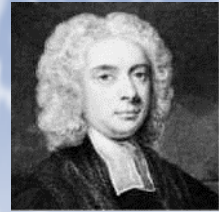


第 18 回バトラー研究会のお知らせ



今回の研究会は 3 部構成で行います。第 1 部では、小田川大典氏（岡山大）による「ヴィクトリア期のバトラー受容：ニューマンとアーノルド」と題するバトラーの 19 世紀への影響と継承についての報告を受けます。次に、第 2 部では、前回の有江報告の主題的視角であったキリスト教自然神学と社会科学との関連について、現在進行中の共同論文集の企画だけでなくバトラー研究におけるその重要性に鑑み大久保正健氏（元杉野服飾大）からの問題提起と討論を予定しております。

第 3 部では、バトラー研究会メンバーによる非公開での、①Mossner 共同翻訳本の現況と、②Springer での英文共同論文集の各自の進捗状況についての情報共有、③研究会の今後についての協議を行います。

第 1 部、第 2 部は公開致しますので、当該の問題についてご関心のある方々の参加を歓迎いたします。

日時：2022 年 12 月 18 日（日）13:30–18:00

方法：Zoom 会議により開催（ホスト：松本哲人氏・松山大・研究分担者）

・トピック（会議名）：第 18 回バトラー研究会

・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは開催当日午前中にメールにて配布。

★研究会メンバー以外にも公開する第 1 部、第 2 部への参加希望の方は、以下の URL にある「参加登録フォーム」に記入して**開催日前日（2022 年 12 月 17 日・土）までに送信**してください。

<https://forms.gle/LW3oEEFqg6YKuDrb6>

第 1 部：報告と討論

小田川大典氏「ヴィクトリア期のバトラー受容：ニューマンとアーノルド」

司会 松本哲人氏（松山大学）

本報告ではヴィクトリア期の思想家マシュー・アーノルド（Matthew Arnold, 1822–1888）のバトラー解釈を検討する。初期の詩作品から晩年の宗教論にいたるまで、一貫してバトラー批判を展開していたとされてきたアーノルドであるが、特に *Last Essays on Church and Religion*, 1877 において、ジョン・ヘンリー・ニューマン（John Henry Newman, 1801–1890）の影響の下、バトラーの議論を肯定的に捉えている。本報告では同書で展開されたアーノルドのバトラー論を分析し、アーノルドのバトラー評価について新たな解釈を示すことを試みる。

第 2 部：問題提起と討論

大久保正健氏「有江報告を承けて：バトラーは、なぜ、経済思想に影響したのか」

司会 矢嶋直規氏（国際基督教大学）

バトラーは、商業社会のダイナミズムやエートスに極めて好意的であった。彼は経済理論そのものには踏み込まなかったが、経済を成り立たせている一般原理を、神学や世界観の観点で明解にのべた。この世界は、単体（個体）の集合ではなく、組織体（constitution, system）である。一見対立しているように見える傾向も、よくみると相互依存적であり、それゆえ体系を形成する。「自己愛と公共善は一致する」（『説教集』）。経済はその一致を実証する強い現実形態に他ならない。

<予定スケジュール>

13:30–15:30 第 1 部

15:30–17:00 第 2 部 公開研究会はここで終了

17:00–18:00 第 3 部

（文責：有江）